

知床ヒグマ対策連絡会議の対応状況

●令和 4 年度第 1 回知床ヒグマ対策連絡会議

- ・日時：令和 4 年 6 月 28 日（火）13：00～15：00
- ・場所：斜里町公民館（ゆめホール知床）
- ・出席機関：環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、標津町、知床財団
※事務局は、年度ごとに行政機関の持ち回りで担当し、令和 4 年度の事務局は環境省。

○開催目的

- ・令和 4（2022）年 4 月に策定された第 2 期知床半島ヒグマ管理計画に基づいた年次計画（アクションプラン）の素案を提示し、各機関で確認・検討の上、了承を得る。

○議事要旨

（1）2022（令和 4）年度知床半島ヒグマ管理計画アクションプラン（素案）について

- ・知床財団から第 1 期に 65 項目あった管理方策を 40 項目に整理した案が示され、各方策の工程表及び目標も含めて、主な変更点を確認した。
- ・各方策の実施機関・団体の凡例（◎○△）の定義が曖昧であったことから、会議後に改めてメール等で意見集約・調整の上、凡例定義を明確化し、各方策の分担を確認。
- ・「出没個体等の遺伝子試料の分析による行動履歴の把握（以下「DNA 分析」という。）」は、ヒグマの行動履歴及び問題個体の駆除状況を把握するために必要な調査だが、協力を得ている北海道大学への助成金が 2022 年度で終わるため、2023 年度以降の実施が未定。
- ・環境省から DNA 分析の継続実施に向けて、予算を各機関で出し合う方向で話を進められないか提案した。北海道ヒグマ管理計画においてヘア・トラップによる個体数指数の動向調査等の実施が規定されていることも踏まえ、引き続き、関係機関で調査の実施を検討・調整することとなった。
- ・広域的 DNA 調査（広域ヘアトラップ調査）は、推進費事業（2019-2021 年度実施）により確度が高い個体数推定がなされていることや、費用が高額なため、次回調査の実施主体・実施頻度の記載は未定で同意。ただし、個体数の予測値と実数とのズレは年々大きくなっていくため、5～10 年後の調査実施が望ましい。

（2）各関係機関からの報告・情報提供

- ・人身事故対応マニュアルの緊急連絡先について、当該年の事務局で更新。
- ・標津町：今年度は最大のペースでヒグマ対応をしていると報告。
- ・羅臼町：今年は捕獲数、対応数とも例年より非常に速いペースで進んでいる。
- ・知床財団：全道計画に記載がある、緊急時の市街地捕獲報告のフロー等について確認。
⇒後日、道庁から回答予定。
- ・知床財団：今年もヒグマのそばでの降車や接近撮影等の事例が発生しており、改正自然公園法（法 37 条）に関する環境省の対応に関して、WG で説明が必要ではないかとの意見。環境省からは、警察と連携した現地での対応フロー等について、警察と調整している状況を説明。